

# 公の施設の再配置問題、いま、重要段階に 各区の地域協議会で議論

第6次行政改革推進計画に取り組んでいる上越市は、12月までに「公の施設の再配置計画」(案)をまとめ、議会に示す予定です。これに伴い、いま、各区地域協議会でそれぞれの区内の「公の施設の再配置計画の方向性(案)」が示され、議論が始まっています。これらの公の施設のなかには地域の今後にかかわる施設も少なくなく、いま重要な段階を迎えています。

私は15日、吉川区地域協議会を傍聴し、審議状況を見てきました。

吉川区における「公の施設の再配置計画における各施設の方向性」については関係地域、団体と協議してまとめたいというのですが、行政改革推進



課から報告を受けた委員からは「地区公民館の分館は地域のよりどころだ。貸付又は譲渡のメリット、デメリットをどう考えているのか」「源や旭の生涯学習センターは指定避難所になっている。それを貸付、譲渡してもいいのか」「新型」コロナの問題が出て、(建物で活動するには)広い場所が必要になっている。どう考えるか」「避難所の中には発電機などすぐ出せないところがある。すぐ調査して改善してほしい」「なんでこういうことを急ぐのか。」「こうしなさい」という市の文書に見える」などの声が相次ぎました。

答弁に立った市の担当課長などは、「国からは(再配置計画について)今年度中に作成を求められている。『今後の方向性(案)』に載せたからといって決定事項ではない。引き続き話し合っていく』とのべていました。

**条件付きでジェットfoil  
イル運行情況か**

「小木直江津航路は人も車両も運べるカーフェリーを」という願いはすぐには実現しないことになるかも知れません。20日、上越市は上越市議会文教経済常任委員会で「上越市の今後の対応(案)」について説明、その中で、「佐渡汽船株は、可能な限り早い時期に小木直江津航路にカーフェリーを導入できるように取り組む」「『あかね』の建造に上越市が支援した補助金



【ミソソバとアカタテハ】(再掲)ミソソバはタデ科の1年草です。漢字で「溝蕎麦」と書きます。まさに溝や湿地に生えています。背丈は30センチ～1メートル。花期は、8～10月。花被は紅紫色、下の方は白の花を咲かせます。花の蜜を求めてキタテハ、アカタテハなどがやってきます。花言葉は「純情」。写真は吉川区代石にて10月18日、撮影しました。

の扱いは別途協議する」など5つの条件を文書で確認し、「あかね」の売却に向けた交渉とジェットfoil導入を容認する考えを示しました。

これに対し委員からは、「『可能な限り早い時期に』といった軽い表現ではなく、もう少し具体的記述にすべきだ」「『ぎんが』だと人員輸送だけになる。運賃も上がると言われている。となると、人はなかなか動かない」「県への要請が弱い。県は大きな株主だし、県の役割は重要だ。県の資金的な援助を含め強く求めていくことが大事だ」などの発言が相次ぎました。

市側は、「『可能な限り早い時期に』は、表現としては難しいところ。佐渡汽船は動いているし、今回はこの表現でおさめていただきたい」「県への要請は内容的に検討していく」などのべました。

委員会での質疑を聴いて、私は、上越市の佐渡汽船株に対する当初の怒り、強い姿勢はどこへ行ったのかと思いました。条件として掲げた内容も抽象的です。そして、新潟県の姿勢も問題です。「県民の生活航路として、人も車両も物資もしっかりと運ぶ」という姿勢が見えません。



直江津の三八市ではツルウメモドキが出始めました。冬がじわりじわりと近づいてきていますね。18日撮影。

## はしづめ法一の 活動レポート

No.1982 2020.10.25

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

## 第六一九回

### 願いかなって

一度は会ってみたい、そう思っていた女性との対面が一月一日、柿崎区のKさんの協力で実現しました。

女性は五十数年前、旧吉川町の吉川小学校などで教員をされておられた古澤さんです。当日、私は浦川原区での用を済ませ、大急ぎで昼食をとった後、待ち合わせ場所のKさん宅をめざしました。

約束の時間よりも一〇分ほど早く着いたのですが、古澤さんはすでに到着されていて、応接間で私を迎えてくださいました。いうまでもなく初対面です。挨拶を交わした後、古澤さんが持参されたソフィーのパン、私が持って行った「尾神サブレ」をそれぞれプレゼントしました。

応接間ではKさん夫妻と古澤さん、私の四人がそれぞれイスに腰掛け、テーブルを囲んで懇談しました。

私から、「先生は浦川原のご出身とお聞きしていたのですが」と切り出しました。すると古澤さんは、「いいえ、浦川原はマサルの母の実家があった所です。マサルは東京出身で昭和四年生まれです。昭和二〇年の東京大空襲では一家四人が必死になって走って逃げたそうです。亡くなった人を飛び越えるようなこともあったと聞いています。でも四人とも無事でした。ただ、家は全焼し、門の「古澤」という表札だけが残っていたんです、不思議なことに……」と一気に話してくださいました。私からは、母の姉が東京大空襲で行方不明になったままであることなどを話しました。

せてもらって、「すごく、きれいで、読みやすいな」と思ったのですが、そのことを言うと、Kさんのお連れ合いのY子さんが古澤さんに向かって「ずいぶん上手になっただわね」と言われました。そしてたいへんな努力家だとも。

Y子さんと古澤さんは若かりし頃からの友人で、同期でした。古澤さんはほめられると、「最近は字を書いても真つすぐにならなくて、右に曲がってしまう。よろよろ書いているんです」と恥ずかしそうに言われました。

紀行文集をばらばらとめくると、古澤さんの描かれた橋などのイラストが何枚かありました。これがまた素敵でした。さらにびっくりにしたのは、タブレット型コンピュータを使っておられたことです。Y子さんが古澤さんを「努力家だ」と言われた意味がよくわかりました。

この日、私は、古澤さんにお会いしたら、ぜひ聞きたいと思っていたことがありました。それは六〇年ほど前、先生の初任校であった旧川谷小学校へ行く時のことです。たぶん冬のことでしょね、夕方遅くなったからと、吉川区村屋のバス停の近くの家に泊めてもらったが、お礼はまだだという、その家を特定しなかったのです。

「うちに泊まっていたいきませんか」と声をかけた人は、背の低い、メガネをかけた男性だったのではないですか」「坂道を斜めに上がってその家に行ったのでは」と聞くと、古澤さんは「そうです」と答えられました。やはり、私が思っていた通りでした。春になればしだけ桜が咲く家です。

この日は一時間だけでしたが、楽しいひと時を過ごさせてもらいました。古澤さんとは今度、旧川谷小学校勤務時代の思い出の地へ一緒に行く約束をしました。もちろん、まだお礼をしてないという「メガネをかけた男性」の家にも。

## 新型コロナ対策支援などで要望聞く

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

|        | 10月14日(水) | 10月21日(水) |
|--------|-----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.050     | 0.053     |
| 上越北消防署 | 0.050     | 0.040     |
| 新井消防署  | 0.040     | 0.050     |
| 頸北消防署  | 0.053     | 0.047     |
| 頸南消防署  | 0.057     | 0.060     |
| 東頸消防署  | 0.050     | 0.040     |
| 名立分遣所  | 0.057     | 0.050     |
| 高士分遣所  | 0.057     | 0.057     |

日本共産党議員団は19日、上越民主商工会の会員さんなどとの懇談を行いました。

消費税増税、新型コロナの現段階での影響、市政などへの要望をお聞きしました。

参加いただいた皆さんからは、「仲町では閑古鳥が鳴いている。Go To Eatは見切り発車でないか。



今年も賑わった「浄興寺de縁日」

手続き、もっと簡単に」「大工仕事はぐっつり減った。住宅リフォーム、2回目も申請可能にしてほしい」「かあちゃんと2人の年金で細々やっている。持続化給付金、2回目、3回目がないと野垂れ死にしてしまう。消費税の減税も必要だ」「売上は6割減少している。プレミアム商品券、高田本町商店街では1丁目から7丁目まで参加できるようにしてほしい」などの声を寄せいただきました。議員団では、今後、地域の商工会員さんなどの声も聞く予定です。